

第3学年 国語科学習指導案

令和3年6月29日（火）

令和3年7月1日（木）

西原町立坂田小学校3年3組 36名

授業者 與那嶺 与利子

1. 研究主題

論理的な読み方を育む文学的文章の授業づくり

－文学教材を読むための観点の系統指導と教材分析シートを用いた校内研修を通して（第3学年）－

2. 単元名 登場人物のへんかに気をつけて読み、感想を書こう

教材名 「まいごのかぎ」 齊藤 倫（光村図書3年上）

3. 単元の目標

- (1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。【知識及び技能(1)オ】
- (2) 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。【思考力、判断力、表現力等C読むこと(1)エ】
- (3) 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。【思考力、判断力、表現力等C読むこと(1)イ】
- (4) 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。【思考力、判断力、表現力等C読むこと(1)カ】
- (5) 積極的に登場人物の気持ちの変化を想像し、学習課題に沿って、物語の感想を書くことができる。【学びに向かう力、人間性等】

4. 単元に位置付けた言語活動

「物語の感想を書いて、伝え合う。」

文章を読んで自分なりに考えたことを書くという活動は、考えの形成に結び付くものである。どの場面や展開からそう考えたのか、どのような言葉からそう感じたのか、などを踏まえて言語化する過程で、児童は物語への理解をより深めていくだろう。さらには、友達と考えを交流することで、新たな気付きや視点の広がりも期待できる。

また、学習に並行してファンタジー作品を読み上げ、単元の終末に気に入ったものを紹介する活動を設定する。人物の魅力や、どんな出来事が起こるか、出来事によって人物がどう変化するかといった観点を含めさせると、「まいごのかぎ」での学習を生かした活動が行える。

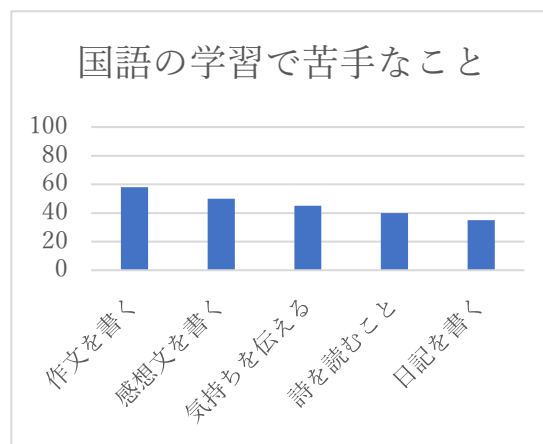
5. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ)	・「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちについて、叙述を基に捉えている。(C(1)エ) ・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)イ) ・一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。(C(1)カ)	積極的に登場人物の変化を想像し、学習課題に沿って、物語の感想を書こうとしている。

6. 単元について

(1) 児童観

児童の実態アンケートから、作文や感想文を書くことが苦手な児童が半数近くいることがわかった。しかし、物語文そのものを読むことに喜びを感じている児童は多い。単元後半で感想を書く前に、「一言カード」を用いて、「おもしろい。」「すきだな。」と感じたところを簡単に書かせて共有し、ヒントになるよう配慮する。また、自分の気持ちを伝えることを苦手とする児童も半数おり、自分の考えを他者へ伝える際には、いつも理由が言えるよう授業の中で論理力を培っていく。



レディネステストとして、教育出版（2年下）「きつねのおきゃくさま」を読み、感想文を書く課題に取り組んだところ、物語に対し興味をもって読むことや、場面ごとに中心人物の心情の変化を読むことができる児童が多かった。しかし、中心人物が出来事を通してどう変容したかという視点で物語を読んだ児童は少なく、「場面の移り変わりに合わせて変化する中心人物の心情」に関する捉えは不十分であった。

3年生の実態から、叙述から離れた感想を書くことも予想されるため、①主張②根拠③理由の3点セットを提示し、思考の流れに沿った観点で書かせることで考えの形成でのつまづきを軽減する。

(2) 教材観

① 教材文の分析

「まいごのかぎ」は、主人公の「りいこ」が、不思議な出来事を通して、周囲の出来事や自分自身を肯定的に捉えることができるようになる姿を描いた成長の物語である。また、不思議な出来事が次々と起こる、楽しいファンタジー作品であり、かぎを拾ったことで非現実の世界に入り、かぎが消えたことで現実世界から戻るという、ファンタジーの入り口と出口がある構成も捉えやすい。

言葉の豊かさが存分に味わえる作品である。「ぱりっとしたシャツのような夏の風」「おとうふみたいなかうしゃ」などの比喩表現や、オノマトペ、擬人法などが多用され、不思議な世界を生き生きと描き出している。作者の多彩な表現を取り上げ、気に入った表現を見つけるなどの活動も取り入れつつ、児童の五感を磨いていきたい。

② 教材の特徴

本作品は三つの特徴があり、まず、作品全体が「りいこは…」と語り手からの視点で物語が進み、「視点の転換」もないため、中心人物がりいこであることが捉えやすい。また、「夏の日ざしのようなこがね色のかぎ」によって不思議な出来事が起こり、中心人物であるりいこの心の移り変わりを読み取ることも容易である。さらに、中心人物の心情が最初の場面では「うつむきながら」「しょんぼり」と書かれ、最後の場面では「うれしくなりました。」とあり、心情表現がはっきりしているため変容が明確に捉えやすい。

こうした特徴から、文学教材を読むための10の観点である「中心人物」「事件・出来事」「変容」の三つの観点を重点的に指導し、中学年読むことの指導事項である「中心人物の変容を読み取る力」を育むよう授業づくりを行う。

③ 単元の位置づけ

学年の初めに学習した「きつつきの商売」では、場面ごとの様子や登場人物の気持ちを想像した。ここでは、場面と場面をつないで読んでいくことを意識させたい。この経験は、離れた場面と場面を比べて読む、物語全体を通して読んで人物について考えるといった学習へつながっていく。

二年	スイミー 人物の行動や出来事を捉え、あらすじをまとめる。 学習用語 あらすじ	お手紙 人物がしたことや様子を、具体的に想像する。
三年	きつつきの商売 場面の様子や、人物の気持ちを想像しながら読む。 学習用語 場面	
	まいごのかぎ 人物の変化に気を付けて読む。	
	ちいちゃんのかげおくり 物語の出来事を自分なりに捉え、感想をもつ。 学習用語 会話文・地の文	
	三年とうげ 物語の組み立てを捉える。	
	モチモチの木 叙述を基に、人物の性格を捉える。 学習用語 語り手	
四年	一つの花 物語の出来事を自分なりに捉え、感想をもつ。 学習用語 設定	

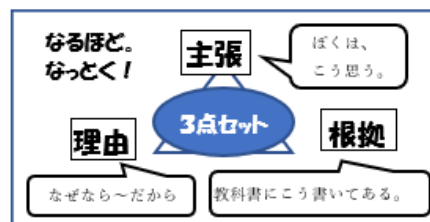
(3) 指導観

① 系統を踏まえた授業

論理的に文学教材を読む力を育むために必要な観点を明らかにし、その観点をどの時期にどの教材で指導するかを系統的に指導できるよう系統表（別添）を作成した。児童が学んだことを身に付け活用できるようになるまでには、一つの教材だけでは足りないため、年間を通して重点指導項目を予め設定した。こうして、教師が年間を俯瞰して指導することで、児童の実態を見ながら、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習でき、論理的な読み方を重ねられる。

② 論を立てるための型

「論理的な読み方」とは、登場人物の行動や情景描写など教材にある叙述を基に、読みの知識や技能を習得し、活用しながら課題を解決する力のことである。そのため、授業では常に「どこからそう考えたのか。」「そう思うわけは何か。」を確かめる。また、すべての児童が抵抗感なく書けるよう型を提示し、書く時間を十分に確保する。そして、自分の考えを形成した後で、他者と交流する場面を設け、「〇〇さんのこういう考え方もいいね。」と一人一人の感じ方などに違いがあることに気づかせ、叙述に基づいていればそのどれもが正解とできる児童を育む。



③ 「オノマトペポンポン読み」音読カードの活用

「オノマトペ読み」とは、本文に擬態語や擬声語が出て来たときに机をポンポンと優しく叩いて確認する音読である。これによって、本教材には擬態語などの様子を表す言葉が多いことに気づき、作者の工夫を感じ取ることができる。文章の内容を具体的に想像したり、文章の論理を考えたりしながら音読することができるようカードを作成する。国語の授業での学びと音読が連動するよう工夫する。

④ 家庭学習と連動させた課題の工夫

本教材では「夏の日ざしをすいこんだような」など比喩で情景や心情が豊かに表現されている。比喩に着目することで、例えられる物事を生き生きと捉え、想像を広げる効果があることに気づかせたい。そこで、家庭学習では、詩の一部を空欄にして提示し、その空欄に入る言葉を想像する課題に取り組ませる。自分なりの考えをもち、理由をつけて自分の予想を書かせたり、友達の考えと交流したりすることで論理的な読み方を鍛えながら、比喩表現のおもしろさやその効果を実感させる。

⑤ 学びのプロセス

授業では、児童に内容理解のイメージを揃えた上で、論理的に考えるという順序で学習を進める。センテンスカードを用いて児童を共通の読みの土台にのせ、そこから教師が問い返しやゆさぶりをを行い、論理的な読み方へとつなげる。また、プラスとマイナスの気持ちでカードを並べることで心情の変化や変容のきっかけを焦点化・視覚化し、教材の論理をどの児童も捉えられるよう配慮する。

(4) 校内研修テーマとの関わり

本校は「根拠をもち対話できる児童の育成～深い学びを生む授業づくりの工夫～」というテーマの基、校内研修を進めている。深い学びの鍵として、国語科では「言葉による見方・考え方」を働かせることが求められており、授業で児童が言葉に着目して、言葉で吟味している姿を具体的に図1のように考える。

「まいごのかぎ」音読カード

3年 組 名前()

オノマトペポンポン読み

音読しながら、オノマトペを見つけたら、つくえをやさしくポンポンたたこう。

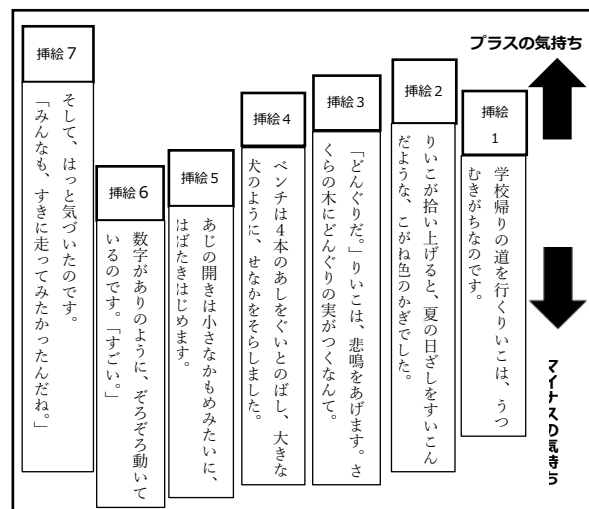
● ぱりっとしたシャツのような夏の風
「ぱりっと」でたたこう！

ふりかえり：オノマトペはいくつあったかな？
数字を書こう。 (個)

読んだらえんぴつでぬりましょう。

1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
☆	☆	☆	☆	☆

	あ あ	蝶 の羽をひいて行く	蟻 が	土
のようだ			三好達治	



中心人物の変容を捉える場面

「みんなもすきに」って「も」を使っているから、自分もすきなことをしてもいいって気づいたことを表しているのかな。

作者がその言葉を使った理由を考えている。

「りいこ」が「よけいなことはない」ってことに気付いたから前向きになったのかな。

対象を表現する言葉を探している。

7. 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動		指導の留意点	観点	評価
第1次	1	とらえる	並行読書（ファンタジーの世界へようこそ） ・ 単元全体の学習の見通しをもち、学習計画を立てる。	・ 教材の論理を児童と確かめる。 ・ 物語全体を読んで一文で書く。 （中心人物）が□□によって（出来事）～した話。（中心人物の変容） ・ それぞれの書いた一文を共有し、思考のズレがあること、それをこれから明らかにすることを伝える。	題名 読む前の題名に対するイメージを共有する。	【思C】 叙述を基に登場人物や場面設定などをおおまかに捉えている。
	2		・ 物語を7つの場面に分ける。	・ 一文交替読み（音読）を行い、共通の読みの土台に向けた取り組みをする。 ・ 人物と4つの出来事に着目しながら、挿絵を並び替える。視覚的にあらすじを捉える。	あらすじ	【知】 様子や行動、気持ちなどを表す語句に着目し、語彙を増やしている。 【思C】 場所と出来
第2次	3		・ 中心人物のりいこの性格について考える。	・ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句に着目して登場人物の気持ちを場面事に整理して考える。 ・ 論理的に書くための型を提示する。 ・ 出来事や中心人物の行動を手掛かりに5つに分ける。	きっかけ 会話文	事に着目して場面に分け、登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉えている。 【思C】 登場人物の
	4 （検証①）	ふかめる	・ 最初と最後のりいこの違いについて考える。 ・ 一文でまとめ第1時と比較する。	・ センテンスカードを使いりいこの気持ちの変化をおおまかに捉える。 ・ 「よけいなこと」はいくつあるか考える。 ・ プラスの気持ちに変化したきっかけについて考える。	きっかけ 変容点はどこか見極める。	考え方や気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて、具体的に想像している。
			【評価のポイント】 ・ 叙述から想像を広げ自分なりに考えたことを一文にまとめているか。 ・ いくつかの叙述を関連付けて、りいこの考え方の変化を読み取れているか。			
	5		・ 物語の最初と最後でりいこの気持ちが変わった理由を考える。	・ 物語の最初と最後でりいこの気持ちが変わった理由を考える。 ・ 同じことが繰り返されているおもしろさに気づかせる。 ・ りいこの前にうさぎが現れたのはなぜか考える。	変容 比較する。	
第3次	6 （検証②）	まとめる	・ 物語を読んで「おもしろいな。」と思ったところを中心に、感想を書く。	・ これまでの学習を生かして物語の読み、感じたことをまとめる。 ・ 「りいこに会えたら。」「もしも、りいこだったら、」と考える。	題名 作者の思いや伝えたいことは何か	【思C】 文章を読んで理解したことに基づいて、感想をもっている。 【思C】 自分の考えと友達の考えを比べて、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。
	7	ひろげる	・ 感想を読み合って、自分と同じところや違うところを伝え合う。	・ 感想を共有して共通点や相違点を見つける。 ・ 学習したことをふり返り、自分自身の考えの変容を自覚し、学びを自己評価する。		

8. 単元の学習指導

オリエンテーション		目標：中心人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。
主な学習活動とその意図・留意点		☆主な発問・指示と○児童の反応
導入	1. 「スイミー」を音読する。 2. バラバラに並んだセンテンスカードを正しく並べ替える。 3. 全体で物語の流れを確認する。 4. めあてを確認する。 5. 中心人物とは何か確認する。 2年生の学習を想起させる。 6. 「スイミー」の人物像について考える。 教科書の叙述を基に、根拠を明らかにして考えるよう促す。 7. 並べ替えたセンテンスカードを「さいしょ」「きっかけ」「さいご」に分けて図の構成について考える。 最初と最後でスイミーの気持ちに変容があることをセンテンスカードで指し示す。(共通の土台にのせる) 8. 物語の主題にせまる。 自分の個性を生かすこと。 仲間と協力すること。 9. 物語を一文でまとめる。 型を提示する。「さいしょ○○だったスイミーが、△△によって、～になる話。」 10. 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	☆挿絵がバラバラになっています。正しく並べられますか？ ○始めの挿絵はスイミーが兄弟といるからエだね。 ○終わりはみんなで魚を追い出すからウだよ。 めあて：中心人物のへんかに気をつけて読もう。 ☆中心人物とはどんな人のことを言いますか？ ○物語の最初と最後で一番、変化のあった人のこと。 ☆スイミーの人物像について考えましょう。 ○一匹だけまっくろ。泳ぐのが早い。 ○かしこい。いいアイデアが浮かんだから。 ☆最初のスイミーの気持ちはどうだったかな？ ○最初は一人ぼっちでさびしかった。 ○海のすばらしいものに出会って、元気になった。 ☆スイミーのこだわり続けたことは何か？ ☆なぜ、安全な海の底から「出てこいよ。」と言ったのか。 ☆「うんと考えた。」のはなぜか。 ☆スイミーの気持ちが変わったところはどこか。 ○最初は独りぼっちだったスイミーが、海の素晴らしさを知ったことによって、仲間と協力し合って大きな魚を追い出して、兄弟で楽しく暮らした話。 ○スイミーが、自分だけがまっくろという個性を生かして、大きな魚を追い出し、みんなで楽しく暮らす話。(たくさんの知恵を出すことによって)
		評価：登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述をもとに、大まかに捉えて一文でまとめている。 (記述)

第1次 1時/全7時		目標：物語を通読して大まかに捉え、学習課題を設定して進んで学習計画を立てることができる。
主な学習活動とその意図・留意点		☆主な発問・指示と○児童の反応
導入 5分	1. 単元扉から、物語の内容を想像する。 2. めあてを確認する。 めあて：学習計画を立てよう。	☆P65 にこれから読む物語のことが書かれています。 題名からどんな物語か想像してみましょう。 ○りいこが迷子になった鍵を助けてあげる話かな。
展開 12分	3. 範読を聞いて大まかに内容を捉える。 挿絵を手掛かりにして、大まかに設定や出来事をつかませる。	☆後で挿絵を物語に出てきた順番に並べ替えます。では、物語を読んでもみます。 ○同じ場面の挿絵はまとめてもいいかな。
5分	4. 作品全体を捉えるために物語を一文で書く。 (中心人物)が、(出来事・事件)を通して、(変容)する話。	☆物語を一文にまとめて書いてみましょう。 ○中心人物はりいこかな。 ○りいこが、鍵を拾って不思議なことが起こる話。 ○不思議な出来事はいくつあるのかな。
10分	5. 単元のめあてを確認する。 教材→グループ→全体で対話し、思考のズレを確認し、対話に必然性が生まれるようにする。 教材との対話＝個人の学び 皆で考えたい課題＝共同の学び ※思考のズレを板書し、みんなで話し合いたい共通課題を可視化する。	☆分からないことや知りたいことを確かめながら話し合しましょう。 ○さくらの木やベンチも登場人物かな。 ○最初と最後でりいこがどう変わったのかうまく表現できないな。 ○りいこは、「しょんぼりした気持ち」から「うれしい気持ち」に変わっていると思う。 ☆分からないことは今後の学習でみんなで明らかにしていきましょう。
10分	6. 学習計画を立てる。 単元名から学習目標を確認する。 これまでの学習を想起させ、それを生かして感想が書けるよう促す。	☆P65 に単元の目標が書かれています。これまでの学習で感想を書くときどんなことに気をつけましたか。 ○「わたしはおねえさん」では、自分と比べながら感想を書きました。 ○どこからそう思ったのかを書きました。 ○なぜそう思ったのか理由を書きました。 ☆教科書 P82 を開いて、学習の計画を立てましょう。
3分	7. 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	☆この単元でがんばりたいことを書きましょう。
評価：物語の内容について想像を広げて楽しみ、進んで学習計画を立てようとしている（発言・記述） 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述をもとに、大まかに捉えている。（発言・記述）		

第1次 2時/全7時		目標：様子や行動、気持ちや性格を表す語句に着目して出来事を想像し、出来事や登場人物の行動・気持ちなどを場面ごとに整理して捉えることができる。
主な学習活動とその意図・留意点		☆主な発問・指示と○児童の反応
導入 5分	1. 本時のめあてを確かめる。 めあて：物語を7つの場面に分けよう。	☆今日から「まいごのかぎ」を詳しく読んでいきます。様子や気持ちを表す言葉に気を付けて読みましょう。 ※一文交替読みで全員音読する。
10分	2. 音読をして、様子を表す言葉から出来事を想像する。 ※場所と出来事に気を付けて読むことでいくつかの <u>場面</u> に分けることができることに気づかせる。 ※児童から出た言葉を挿絵カードに書いておき、次時以降、物語の流れを確認する際に役立てる。	☆「きつつきの商売」で場面という言葉进行学习しました。場所と出来事に気を付けて、この物語をいくつかの場面に分けてみましょう。 ○さくらの木にどんぐりがつきました。 ○公園ができました。 ○たとえを使った言葉は2年生でも学習したよ。 ○オノマトペもたくさん出てくるね。
15分	3. 挿絵カードの並び替えを通して物語全体を把握する。 ※場面分けで議論になったときは、正解を出すことに固執せず、学級として統一できるよう促す。 ※児童から出た言葉をもとに、整理しながら場面を分ける。	☆それぞれの場面で起こったことと、そのときのりいこの気持ちを確かめましょう。様子が分かる言葉の中にヒントがありますね。 ○挿絵が13枚もあるから、同じ場面はまとめると分かりやすいと思う。 ○場面事にりいこの気持ちが変わっているね。
10分	4. 全体で叙述を根拠にしながら、場面分けを考える。 ※ファンタジー構造であることと、ファンタジーには入口と出口があることを捉える。 まとめ：ファンタジーの世界のお話には入口と出口がある。	☆グループで話し合ったことを教えてください。場面分けをするときに難しかったことや意見が分かれたところがありますか。 ○りいこがバスを見送る場面とバスが踊り出す場面をいっしょにするか迷いました。 ○「かぎがいつのまにかなくなった」とあるから、そこで不思議な世界が終わっていると思う。
5分	5. 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	☆今日は言葉に注目しながら、いくつかの場面に分けることができましたね。分かったことや感じたこと、難しかったことをふり返りに書きましょう。 ☆次時はりいこがどんな子なのかを考えます。
評価：語句に着目して、描かれている出来事について想像を広げている。（発言） 場所と出来事に着目して場面ごとに出来事や登場人物の気持ちを整理している。（発言）		

第1次 3時/全7時		目標：様子や行動、気持ちや性格を表す語句に着目して出来事を想像し、出来事や登場人物の行動・気持ちなどを場面ごとに整理して捉えることができる。
主な学習活動とその意図・留意点		☆主な発問・指示と○児童の反応
導入 5分	1. 本時のめあてを確かめる。 めあて：せいかくが分かる文を見つけて、りいこはどんな子か考えよう。	☆今日から「まいごのかぎ」を詳しく読んでいきます。 様子や気持ちを表す言葉に気を付けて読みましょう。 ※一文交替読みで全員音読する。
10分	2. 音読をして、様子を表す言葉からりいこの性格を想像する。	☆りいこはどんな子か考えながら読みましょう。 ○りいことわたしとにているな。
15分	3. 教科書巻末にある人物を表す言葉を提示し、語彙を増やす。 ※りいこの言動から性格を想像するよう促す。 ※「しょんぼりしている」は、様子を表しており、その様子からどのような性格であるかを想像させる。	☆人物を表す言葉にはいろいろなものがあります。意味が分からない言葉はありますか。 ○「陽気」ってどんな意味かな。 ○「陽気」とは、明るい人のことだと思います。 ○「がんばりや」って先生のことだ。 ○「真面目」ってりいこのことがと思うな。
	4. りいこの人柄について考える。根拠を明らかにして自分の考えを書かせる。 ※論を立てるための型を提示する。 主張：自分はこう思う。 根拠：ここに書かれている。 理由：なぜそう思うのか。	☆りいこがどんな人か考えましょう。 ☆性格を表現するときには、教科書にある文章から想像したことを根拠にしましょう。 ○絵のうさぎに「悪いことしたなあ。」と思っているので優しい人だと思います。 ○かぎを落とした人が困っているに違いないと言っているから、親切な人だと思います。
10分	※叙述を基にすることを確認する。 5. カードに考えた性格を記述させ、黒板に貼り、全体で共有する。 ※りいこの性格を捉えることが今後読みを深める上で重要である。様々な叙述から想像できることに気付かせたい。	☆みんなが考えたりいこの性格を見てみましょう。 ○同じ文を読んでも考えることが違うね。 まとめ：せいかくを読むときは人物が言ったことやしたことから想像する。
5分	6. 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	☆今日は言葉に注目しながら、りいこの性格について考えることができましたね。 ☆次時からはりいこが最初と最後でどのように変わったのかをみんなで考えていきます。
評価：語句に着目して、描かれている出来事について想像を広げている。（発言） 場所と出来事に着目して場面ごとに出来事や登場人物の気持ちを整理している。（発言）		

第2次 4時/全7時

目標：中心人物の考え方の変化について、場面の移り変わり結び付けて、具体的に想像することができる。

主な学習活動とその意図・留意点

☆主な発問・指示と○児童の反応

導入

1. 本時のめあてを確認する。
2. 場面1を読んで人物像について想起させる。
3. センテンスカードの並べ替えを通してりいこの心情の変化を丸ごと捉える。
4. 不思議な出来事を確認し、それぞれの場面における不思議な出来事に対するりいこの考え方をおさえる。
※りいこの考えを児童の発言をもとに板書する。
※発言の際には理由や根拠となる叙述を明らかにさせる。
5. **きっかけ（変容点）**を捉える。
「みんなもすきに」という記述からりいこが不思議な出来事を捉え直したことを押さえる。
6. りいこの**変容**（考え方の変化）についてまとめる。
※それぞれの場面に書き込んだことをつなげて、個人で考えた後に全体で共有する。
7. うさぎが再登場した理由やうさぎはりいこに何を言いたかったかを考える。
8. 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。

☆今日からはりいこが最初と最後でどう変わったのかを考えていきます。

☆前回の学習でりいこの性格について話しましたね。

○親切な子。優しい子。

☆りいこがしたよけいなことはいくつありますか。

○5つかな。かぎを拾ったこともよけいかな。

○さくらの木、公園のベンチ、あじの開き、バスでいのかんばんにかぎをさしたこと。

○うさぎの絵を消したこと。

☆不思議な出来事が起きたとき、りいこはどう考えていますか。

○さくらの木からどんぐりが降って来たときは、びっくりして「さくらの木のかぎじゃなかったんだ。」と言っています。

○「りいこは悲しくなりました。」とあるから、気持ちがへんかしてきていると思います。

☆「はっと気づいたのです」とありますが、何に気づいたのでしょうか。

○りいこのしたことは、よけいなことではなかったことに気付いたと思う。

○うさぎも消さなくてよかったかもしれない。

☆物語全体を一文でまとめましょう。

（中心人物）が、（出来事・事件）を通して、（変容）する話。

○りいこはふしぎな出来事をおかしいと思っていたけど、やってみたいことはやってもいいんだと前向きになった話。

☆りいこの前にうさぎが現れたのはなぜだと思いますか。振り返りに書いておきましょう。

○「自分も楽しかったよ。」と言いたかったのだと思います。

☆次回はりいこの気持ちが変わった理由について考えます。

評価：場面の移り変わりに着目して、「りいこ」の考え方の変化を具体的に想像している。（発言・記述）

第2次 5時/全7時

目標：登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて、具体的に想像することができる。

主な学習活動とその意図・留意点

☆主な発問・指示と○児童の反応

導入

1. 本時のめあてを確認する。

めあて：さいしょとさいごでりいこの気持ちが変わった理由を考えよう。

2. 場面の移り変わりと結び付けて、りいこの気持ちの変化を詳しく捉える。

※物語の最初と最後に着目して、大まかな変化を押さえる。

※不思議な出来事がくり返されていく中でりいこの気持ちも変化していることを押さえる。

3. 4つの不思議な出来事を通して、りいこが鍵の力をどれくらい信じているかの気持ちの変化を読み取る。
※教材にある叙述を基に中心人物の変容点を明確にしていく。

4. それぞれの場面を結び付けて、りいこの変化の理由や出来事の意味を考える。

※前時で押さえた考え方の変化と気持ちの変化が対応していることに気付かせる。

※うさぎも物語全体に大きく関わっているので、なぜ再登場したのかを考えさせる。

※「かぎがもしも話せたとしたら。」と視点を変えて考えさせる。

5. 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。

☆前時では、不思議な出来事に対するりいこの考え方の変化を考えました。では、気持ちはどのように変化しているのでしょうか。

☆どんな出来事がありましたか。

○不思議な出来事が4つありました。

☆どの出来事から元気になってきたのだろう。

○バス停の出来事では「わくわくした自分がいやになった。」と言っているから、好奇心で鍵をさしたこと後悔しているみたい。

○だんだん怖くなってきているんじゃないかな。

☆りいこが不思議な鍵の力を信じたのは、4つの出来事のうちいつだったと思いますか。

○桜の木ときは、「こんなことになるなんて。」と言っているから、まだ信じていないかも。

○4つの不思議な出来事をくり返すうちに、鍵の力を信じる気持ちも高まっている。

☆りいこの気持ちが変わった理由をまとめましょう。

○最初は自分はよけなことばかりしてしまって落ちこんでいたけれど、不思議な出来事をくり返して、みんなが楽しんでいることに気づき、自分のしたことはよけなことではないと思えてうれしくなったから。

○「みんなもすきに走って見たかったんだね。」とりいこは言っていて「も」ってことは、そこに自分のことも入っているから。

☆りいこの前にうさぎが現れたのはなぜだと思いますか。

○うさぎは、「心の自由さを大切にね。」「すっかり消してしまわなくていいんだよ。」「私も楽しかったよ。」とりいこに伝えたかった。

評価：場面の移り変わりに着目して、「りいこ」の気持ちの変化を具体的に想像している。（発言・記述）

第3次 6時/全7時		目標：文章を読んで理解したことに基づいて感想をもち、工夫して書き表そうとすることができる。
主な学習活動とその意図・留意点		☆主な発問・指示と○児童の反応
導入	1. 本時のめあてを確認する。	☆これまでの学習では、りいこの気持ちを表す言葉に気をつけて変化について考えてきましたね。
	「おもしろいな。」「すきだな。」と思ったところを中心に、感想を書こう。	
	2. 「おもしろいな。」「すきだな。」と思ったところを選び、その理由を交流する。(個人→グループ) ※黒板に挿絵を貼り、カードを複数枚配り感想を書かせる。 ※グループで共同することで全員がカードを書けるようにし、この後の感想を書く活動に役立てる。 3. カードが出揃ったら全体で共有する。 ※<u>同じ文章を読んでも感じ方に違いがあることに気づかせる。</u> 4. 教科書 P83 にある「感想のれい」を参考に感想文を書く手順について理解する。 ※「書きだし」と「むすび」は例をいくつか提示し共有しておき、どの児童も書けるよう配慮する。 【感想を書くときのポイント】 ① 書き出し ② 感じたこととその理由 ③ むすび ※教科書巻末の<u>感想語彙</u>を提示し、自分の感想によりぴったりの語彙を使うよう指導する。 5. 本時の学習をふり返し、次時への見通しをもつ。	☆この挿絵の中から自分が「おもしろいな。」「すきだな。」と思ったところを選びましょう。選んだら、配ったカードに根拠や理由を書きましょう。 ○あじが空を飛んでいっちゃうのはびっくりしたな。鍵を抜かなかったらどうなっていたのかな。 ○りいこの前に鍵が現れた理由は…。 ☆みんなのカードが出揃いました。みんなの考えを確かめながら、どの出来事について感想を書くのか考えましょう。 ○人によって感じ方にちがいがあるんだな。 ☆P83 を見て感想の書き方を確認しましょう。みんなを出し合った感想も参考にしましょう。 ○りいこと私を比べると…。 ○もしも私がまいごのかぎを見つけたら…。 ○この物語の後、私はりいこはこの出来事を友達に話さなかったと思います。なぜなら…。 ○もし、りいこに会えたら「○○だよ。」と伝えたい。 ○りいこと仲良しの友達になれると思います。なぜなら、私もりいことにしているところがあるからです。 ○まいごのかぎはきっと～なものだと思います。 ☆次の時間は、今日書いた感想をみんなで読み合い、考えが同じところや違うところについて伝え合います。
評価：これまでの学習をいかして、物語のおもしろいところや好きなところを見つけている。(発言・記述) 考えの理由をはっきりさせ、書きだしや結びを工夫して感想を書こうとしている。(記述)		

第3次 7時/全7時		目標：感想を共有して一人一人の感じ方の違いに気づき、考えたことを伝え合うことができる。
主な学習活動とその意図・留意点		☆主な発問・指示と○児童の反応
導入	1. 本時のめあてを確認する。	☆今日は、お互いの感想を読み合って、考え方の同じところや違うところを見つけましょう。新しい発見があるかもしれないですね。
	めあて：感想を読み合って、自分と同じところやちがうところを伝え合おう。	
	2. 前時に書いた感想をグループで読み合い、感じたことを伝え合う。 ※叙述に基づいていればどのような感想でも認め合えるようにし、物語には多様な楽しみ方があることに気づかせる。	☆感想をグループで読み合い、自分の考えと同じところや違うところを伝え合いましょう。 【感想を読むときの観点】 ① 相手はどう思ったのか。 ② どこからそう思ったのか。 ③ そこからどうして～だと思ったのか。 ④ 似たような経験はあるのか。
	3. 友達の感想を読んで考えたことを発表する。 ※参考になった友達の意見、自分とは反対だった友達の意見、感心した意見など、印象に残った友達の考えについても必ずふれて学習を振り返るよう促す。	☆友達の感想を読んで考えたことを発表しましょう。 ○私も～さんも最後にいいこの考え方が変わるところが好きだと書いていたけれど、その理由が違っていたので、もっと考えてみたくなりました。 ○うさぎを消してしまったことを気にしている優しいりいこだから、不思議な鍵に会えたという考えに納得しました。
	4. 単元の学習を振り返る。 ※教科書 P83 のふりかえろうや P84 のたいせつを読み、本単元で学習を振り返る。	☆友達の感想を読んで、自分の考えは変わりましたか。新しい発見はありましたか。今の考えを書いておきましょう。
	単元のまとめ：物語を読むときには、出来事で登場人物がどうかわるのかをたしかめながら読むことが大切。	
	5. 「この本、読もう」のように不思議なことが起こる文学作品の読みへ広げる。 ※学んだ観点を確認する。	☆これかも物語を読むときは、出来事と登場人物の変化の関わりを考えながら読むといいですね。 ○中心人物は、出来事や周囲の人物との関わりの中で変わっていくことを学んだ。
評価：感想を共有して、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。【観察・発言】共通点や相違点を積極的に見つけ、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。【発言・記述】		

坂田小学校 第3学年

年間を通して身に付けさせたい読みの力「中心人物の変容を読み取る力」

※太枠は重点指導事項

教材名		きつっきの商売	まいごのかぎ	ちいちゃんのかげおくり	三年とうげ	モチモチの木
文学教材を読むための10の観点 \ 指導事項 ㊦学習用語		場面や登場人物の気持ちや想像する	登場人物の変化に気をつけて読む	物語に対する感想をもつ	組み立てて捉える	登場人物の性格を捉える
1	設定 時、場所、時代、人物の状況、話のきっかけ 物語全体の様子をつかむ。 ㊦設定	場所 天気	場所 出来事	時 場所	時 場所	時 場所
2	人物 中心人物（大きく変容する人物） ㊦登場人物 登場人物（人物同士の関係） 人物像 こだわり	登場人物 中心人物	登場人物 中心人物	登場人物 中心人物	登場人物 中心人物	登場人物 中心人物 対人物
3	構成 作品を大きく分ける。人物の行動で分けられる。 場面（いくつかのまとまり） ㊦組み立て・場面・段落	2つの場面	場面 くり返し	場面 くり返し	起承転結	起承転結
4	あらすじ 話の大体をとらえてまとまる。 ㊦あらすじ 物語の事件や出来事をつなぐことでまとめることができる。	自然の音の良さに 気付きみんなを幸 せに	落ちこんでいたり いこが前向きにな る	戦争で家族とはぐ れたちいちゃん	言い伝え・迷信を 知恵で乗り切る	おくびょうな豆太 が灯を見る
5	視点 語り手（物語の地の文を語る人）、㊦会話文・地の文・語り手 視点（語り手がどこからその作品を見て語っているか）	語り手	語り手	語り手の語りを中心 とした読み	語り手	語り手から見た豆 太 豆太の視点
6	表現技法 句読点、「」、心内語、比喩、ダッシュ、オノマトペ 作者の強調したいことが分かる。 ㊦句読点	擬音語 擬態語	比喩 擬音語 擬人法	空の叙述の変化 (色) 体言止め	情景描写 心情描写 行動描写	情景描写 カタカナ
7	きっかけ 中心人物の変容点。 出来事（事件） ㊦出来事	自然の音	みんなも走ってみ たかった	一人でかげおくり をするちいちゃん	トルトリ（知恵 者）の登場	モチモチの木に灯 がついている
8	変容 中心人物のものの見方考え方が大きく変わるところ 中心人物の気持ちが変わった理由	2つの場面を比べ る	最初と最後を比べ る	第一場面と第四場 面を比較	ふとんから出る様 子 対照	弱虫でもやさしけ りやを比較
9	題名 題名が何を表しているのか。作者の想い ㊦題名 作品の主題との関わりを考える手掛かりとなる。	きつっきにびった りの店は何か	まいご=答えがな い かぎ=好奇心	題名「の」が表し ていること	民話 物語の舞台	豆太がつけた木の 名前 豆太のこだわり
10	主題 作者が物語の中で伝えたいことは何か。 ㊦作者 自分の経験と比べながら読む。	本質に触れること	成長 気づき 試みること	家族、愛情 身近な幸せ 平和	知恵 考え方	勇気 優しさ